

サマー・ワーク・キャンプ 2015

開催報告書

学校図書館プロジェクト・SLiiiC

2016年3月

## はじめに

サマー・ワーク・キャンプ (SWC) は、学校図書館プロジェクト SLiiiC (スリック) のメインイベントです。これは、2006 年の SLiiiC 設立以来変わらず、その目的と存在意義を問いつけるイベントとなっています。SLiiiC は、学校図書館支援を目的とした任意団体です。学校図書館関係者、関心を持つ方々に対して何ができるのかを模索し、それをサイトのコンテンツやイベント等で形にしてきました。そしてここ数年間は、SWC は明確なテーマ性を持った研修会として開催されています。

今年、SWC2015 のテーマは「学校図書館と生涯教育」でした。企画段階で俎上にあがったのは、「学校図書館は生涯教育の入り口ではないか」という考え方です。現在、公共図書館との綿密な連携はおろか、小中高の各学校図書館間のつながりも確立できているとは言い難い状況です。しかし本来、“学び続ける”ということは、学校の枠など超えたところにあるはずではないでしょうか。それならば、子どもたちの学びの場に必置されている学校図書館の果たす役割は、決して小さいものではありませんと思われるのです。そこで、学校図書館が生涯教育という枠組みの中で果たす役割について、ともに考えようということになったわけです。

さて、学校図書館の枠組みを超えたところの話をするためには、もちろん学校図書館関係者だけで、ことを完結させている場合ではありません。公共図書館、大学図書館、そして学生のみなさんにも参加していただき、話を聞いたり、共に活動したり、交流したいと、私たちスタッフは切望いたしました。この願いに応答してくださったのが、今回の講師や先生方、企画参加の学生のみなさんです。元々テーマが壮大すぎて、たった 2 日間では結論など出るはずもなく、参加者ひとりひとりが、何が少しでも手がかりや新しい考え方を得てくださればそれで成功、と考えておりました。しかし、そのための材料と人材は、十分すぎるほど提供できたのではないかと思います。このようなラインナップで、このような企画内容で、無事多くの参加者を得て開催できたことに、心から感謝いたします。

SWC2015 は、2015 年 9 月 12 日 (土) と 13 日 (日) の 2 日間、東京都調布市の白百合女子大学を会場にして、66 人 (2 日間通しての実数) の参加者を得て開催されました。この報告書の他、『カレントアウェアネス-E』(国立国会図書館運営の図書館及び図書館情報学に関する最新ニュースを提供するメールマガジン) でも報告を行っておりますので、ご覧ください。 <http://current.ndl.go.jp/e1718>

ここでは、特に以下の方々に謝辞を述べさせていただきます。

オープニング講師をつとめてくださった高井陽さん、プレッシャーをはねのけて素晴らしい、そして誠実な話をしてくださってありがとうございました。学生を率いてきてくださったうえ、様々なご指導を賜りました日向良和先生、小峰直史先生、そして白百合女子大学図書館事務部事務課のみなさまに、心から感謝いたします。みなさまのおかげで、私たちの活動が大学へつながることの大切さを実感することができました。そして、白百合女子大学図書館ピアサポーターLiLiA（リリア）、都留文科大学図書館サークルLibropass（リブロパス）、専修大学文学部小峰直史研究室の学生のみなさん、忙しい学生生活の中参加してくださって本当にありがとうございます。みなさんの斬新でピュアな企画に、私たちはどれだけ刺激を受けたかわかりません。さらに、株式会社ソフテック、株式会社ブレインテック、朝日新聞社、キハラ株式会社のみなさま、資料提供やSLiiiCマーケット!へのご参加ありがとうございます。企業人としてのご意見や考え方をいただけたことも、今回のテーマを考える重要なヒントとなりました。さらにさらに、今年もかわらず、チラシやノベルティグッズなど、実にキュートなデザインを提供してくださった渡辺ゆきのさん、参加もしてくださってありがとうございました。ゆきのさんに会える、というだけでテンションのあがった参加者がきつといたと思いますよ。

最後になりましたが、SWC2015に参加してくださったみなさま、数ある研修会、イベントの中、SWCを選んでくださって本当にありがとうございます。当たり前の話ですが、企画運営側ができることは、その枠組みやアイテムをそろえることだけです。本当にその内容を作り上げ、実りのあるものにするのは、参加者のみなさまの熱意と見識にほかなりません。2日目午前のワールド・カフェの終わりの方で、参加者全員が黒板前に集まって、整然としながらも自由に発言し意見を交換し合う様子を見て、私は、これだけで、このような場を出現させることができただけで、全て報われたと、激しく感じておりました（同時に、その場に立場上参加できない自分を顧みて嫉妬の念にかられておりました）みなさまにも、このイベントに参加してよかったと少しでも感じていただけたことがありましたら、幸いです。

来年度も、もちろんSWC2016が行われます。みなさまに再び私どものイベントを選んでいただけますよう、全力を尽くしたいと思います。そして、これも正直に申し上げますが、私たちスタッフが一番学び、喜ぶことのできるような、そんなSWCにすることができたら、とスタッフ一同心から願ってやみません。

学校図書館プロジェクトSLiiiC 代表 横山寿美代

# 目次

## はじめに

### 1. サマー・ワーク・キャンプ 2015 開催報告<1日目：9月12日（土）>

- 講演「学校図書館と公共図書館がつながるために」（講師：高井陽氏）
  - 講演要旨
  - 質疑応答
  - SWC2015 を終えて…高井陽さんメッセージ
  
- コラボ：白百合女子大学「生涯学習概論」（担当：今井福司）
  
- 都留文科大学 図書館サークル Libropass 活動報告
  - SWC2015 を終えて…日向良和先生メッセージ
  
- 白百合女子大学図書館ピアサポーターLiLiA 紹介
  
- LiLiA 企画（お悩み相談会，LiLiA と一緒に POP を作ろう）
  
- 都留文科大学 Libropass × 白百合女子大学 LiLiA ビブリオバトル
  
- 懇親会 in 仙川

## 2. サマー・ワーク・キャンプ 2015 開催報告 <2日目：9月13日（日）>

- ワールド・カフェ「学校図書館と生涯教育」（講師：小峰直史先生（専修大学文学部），ファシリテーター：専修大学小峰研究室学生）
  - ワールド・カフェ要旨
  - ワールド・カフェ「学校図書館と生涯学習」意図開き…小峰直史先生
  - SWC2015 を終えて…専修大学小峰研究室 稲井田雛乃さん（2日目ワークショップファシリテーター）
- SLiiiC マーケット！
- SLiiiC 学校図書館運営マニュアルプロジェクト活動報告
- 「学校図書館・公共図書館あるある」トークイベント

おわりに



## 2. サマー・ワーク・キャンプ 2015 開催報告

### <1日目：9月12日（土）>

朝方，地震によるダイヤの乱れあり，開始時間は予定より5分遅れ。  
いらした方には壁面の高井さんへの質問コーナーへの記入をお願いしました。

#### 講演「学校図書館と公共図書館がつながるために」

～図書館司書となるまでのお話～

高井 陽氏（大田区立大森南図書館 司書）

「自分の半分はメロンパンでできている」と、導入から和んだ雰囲気が始まった講演でした。もちろん，傍らには知る人ぞ知る，トレードマークのパペット（本日はねずみくん）も控えています。

高井さんが図書館司書になるまで，また現在考えていらっしゃるということについて伺いました。



#### 学校図書館との出会い 学生時代

学校図書館の最初の記憶は，代本板を使って「シートン動物記」を借りたことです。小学校3年生の時に新設校に転校しまして，ここには毎日図書館を開けてくれる先生がいました。5～6年生が小学生時代の図書館活用のピークかな，友だちが「ルパン」を紹介してくれて，このシリーズに熱中しました。

中学校の図書館は，管理する人がいない，あまり開かない，ただの本置き場という場所でした。しかも公共図書館は学区外で遠いのでほぼ使わず。この頃，古本屋というもの存在を知りました！

登校5分の高校時代にして初めて，衝撃の図書館体験（常に人がいる！）をしました。そして，当時20代だったと思われる師匠（学校司書）と出会いました！高校の学校図書館では，マンガも含めて幅広い本と出会い，リクエストをすると買って貰える（！）

のも驚きでした。

準備室で漫画を読むために、図書館の仕事を手伝っていたら、師匠から「図書委員になりました」とメモが届きました。それ以来、図書委員の活動に没頭しましたが、読書量は減ってしまいました。しかし、他校の図書館を公認欠席扱いで見学に行ったり、「図書委員ってこんな活動ができるんだ！」という様々な体験はとても大きかったです。

“家でも学校でもないサードプレイス”としての場所でもありました。

## 司書への道

大学時代、「司書になりたい」という希望を抱いたのですが、師匠には反対されました。それでも司書になりたかったなのでその道を進むことにしました。

## 高校図書館時代(半年間)

学生だった頃の受ける側から提供する側へ。図書委員と交流することを大切にしていました。

## 市立図書館時代(5年間)

アルバイトからの昇格で嘱託になりました。実践で公共図書館の基礎を学びました。学校図書館、公共図書館も根幹は一緒だと考えるようになり、人との出会いにもとても恵まれました。

## 暗黒時代(1年間)

会社に入り業務委託で図書館に行き、仕事に対する悩み・葛藤を経験した後、1年で退社しました。師匠達からも怒られました。そこから再度就活をして現在の図書館へ着任しました。師匠と「3年間はガマン！」と約束しました。

## 公立図書館時代(現在)

意識的に外に出てつながりを持つようにして、更にいろんな人と出会いました。アイデアを蓄積することも大切です。朝ドラ関連で地域の活性化を！という仕事が発生し、張り切って企画を考えて実行しました。

他県との交流企画が成功し、次も企画をする事になったり、再度朝ドラとの関連企画もすることになりました。また、スポーツクラブなどと異業種連携を地域情報も含めて行っています。応援の常設展示なども行っています。

このような成功体験から仕事に自信が持てるようになり、現在のいろいろな好循環に繋がっています。

「生涯学習」は潜在的なものだと思います。

自分にとっての学校図書館は、1. 居場所、2. 仲間、3. 経験・体験（外での体験）、4. 目標（将来司書になりたい）を獲得した場所でした。読書体験の話がこれまで出なかったのは、図書館を授業や勉強で利用した記憶がほとんどないからです。学校図書館で学んだことは「人生」です。今の仕事や生涯学習という枠組みを学んできました。

学校図書館と公共図書館は人の人生を軸にしてつながっているのではないのでしょうか。学校図書館は社会の入り口・接点であり、司書はその水先案内人(実践者)です。

今の目標は、大人になっても「図書館って使える！」と感じてもらうことです。

1人職場である学校司書の課題とは何なのでしょう。

相談相手も必要でしょう。司書だって学びが必要ですが、今や学ぶ機会は「研修・学習会・講演会・飲み会・SNS」など、どこにでもあります。

つながりはどこにでもあるので「いっちょかみ」でとにかく関わるのが大事です。他業種や他館種でも学ぶことはあります。専門図書館にも注目しています。できる時にできる事をできる範囲でいいんです！

出会いの場を広げていく時には、学校司書も名刺があると便利なので、必ず持ちましょう。そして名刺には自分なりのキャッチコピーを入れてアピールしましょう。とにかくたくさん「点」を打ち続けること、それはいつか「面」になります。自分も一生学習を続けます。

## 高井さん講演 質疑応答

Q: 高井さんはパペマペの中の人ですか？

A: 公式には、違います。

Q: マペットはいくつぐらいお持ちですか？

A: あちこち行くたびに買うようになり、現在では15体ほど。

Q: 名刺について

A: ひらめきを現す「！」とインフォメーションを現す「i」の形が似ているのを利用したキャッチコピーを入れています。



Q: 図書館に来ない子どもにどう対していますか。

A: こちらから出ていく。サッカースタジアムでも図書館ブースで出張。オフサイドのルールがよく分からない、という方に本を紹介した。たとえば、公共図書館ではサッカーの試合がある日にスタジアムで出張図書館をした例がある。図書館を認知してもらう活動。

Q: 高井さんは師匠と仲が良いようですが、児童生徒との適切な距離って？

A: 年代によって、多少感じ方は違うと思いますが、小学生とは距離が近く感じる。またこちらから導く時もある。「この人は味方だ」という感覚も大切では。先生と司書は違う。「本、借りてね」とは言いたくない。「ここに本があるよ」という場面を作って、自発的に読みたくなる環境を作る。

Q: 大学の時に、大学図書館とはどのようにかかわったのですか？

A: 大学図書館が改装中でほぼ使っていない。なので、今日の話では大学時代の話が出て来なかった。どうやって卒論を仕上げたのか自分でもよく分からない。

Q: 学校図書館に対する支援、団体貸出で大量に借りることなど、どう考えるか

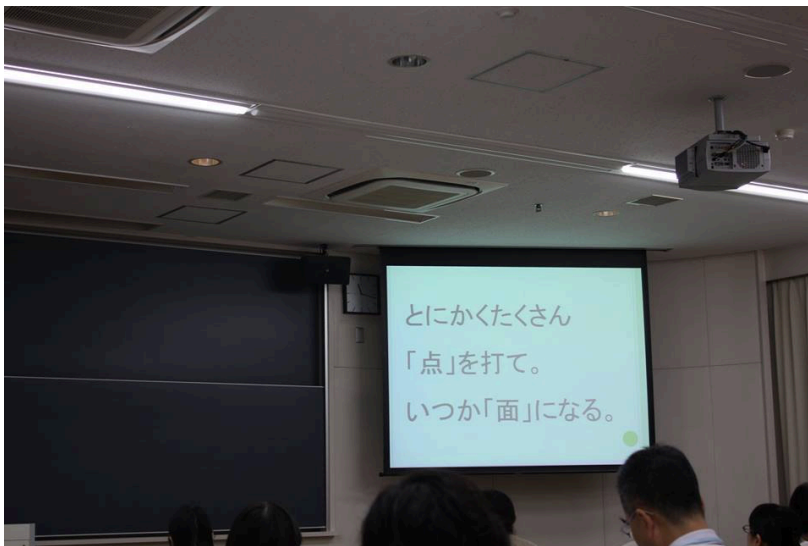
A: まだまだ双方に問題あり。物流システムが無い、学校側に人がいない、図書館側のレベルも問題。

(記・平松奈緒子)

## SWC2015 を終えて・・・高井陽さんメッセージ

SWC 2015 で登壇させていただきまして、ありがとうございます。最初にお話をいただいた時はどんなことをお話すればよいのか不安だったのですが、何とかやり遂げることができました。いかがでしたでしょうか。おかげさまで、改めて自分がここまで図書館とどう関わってきたのかということ振り返る機会にもなりました。個人的内容を多分に含むたない話でしたが、皆さまに何かを感じ取っていただけたとしたら幸いです。現在、私は公共図書館で仕事をしているわけですが、ほとんど学校図書館での取り組みに接する機会がないことが気になっています。学校図書館の現場は、外からはなかなか見えにくいのが現状です。せつかくのすばらしい努力と実践があるのに、もったいない。もっともっとアピールするべきではないでしょうか。それは、学校の中に図書館があって、そこに人がいることの重要性をもっと多くの人に理解してもらうため

にも、必要なことだと思います。人生の中に図書館があり続けるためには、すてきな学校図書館の経験は欠かせませんよ。少なくとも私の経験ではそうでした。そこをお伝えしたかったのです。そして、図書館は縦軸にも横軸にもつながっています。まずはほんの一步だけ、思い切って図書館の外に出てみてください。きっと誰かが、抱えている悩みを解決するヒントを教えてくれるはずです。さあ、これから“点”を“面”にしていきましょう！



## コラボ～白百合女子大学「生涯学習概論」

今回の SWC では、白百合女子大学司書課程とのコラボ企画として、白百合女子大学で「生涯学習概論」（今井担当分）を受講している学生さんを高井さんの講演へ招く試みを行いました。

これはちょうど SLiiiC スタッフの今井が「生涯学習概論」を担当していたこと、同授業の第 12 回目として「学校教育と生涯学習の連携」という内容を設定されていたことをきっかけとして、第 12 回目の授業を SWC の 1 日目参加と振り返る措置を取り実現することが出来ました。

当日学生さんには参加してもらっただけでなく、高井さんの講演へコメントしてもらいようにしました。その結果、下記のコメントが出されていました。会場では出された質問に対して、講師の高井さんからその場で回答してもらいながら双方向のやり取りが行われました。

- ・ 二人のお師匠さんから最も学びたかった部分がありますか。
  - 現状ではありません。今でも二人とは密接なつきあいをしています。未だにリアルタイムで二人の師匠の仕事を見ているからです。
- ・ 逆に図書館から来てもらって本を教えてもらうことができると聞いて、図書館を身近に感じられる良い機会になりました。
- ・ 人に恵まれた環境が整っていることがきちんと働ける条件となるのだなと思いました。
  - 対人面については、奇跡的に良い人に恵まれていて、幸運な人生だと思っています。辛くなったときにも師匠二人が本気で考えてくれたのが大きかったと思います。
- ・ 高井さんがお仕事をしているとき、どういったときにやりがいを感じますか。
  - これというのではないのではと思う。日常の中で仕事をしていて、これだというのが出てしまったら終わりだと考えている。継続すると言うことは意識している。
- ・ 高校の図書館で勤務しているとき、毎月の貸出冊数を超えてやろうと考えていたとの発言がありましたが、どのようなことをやっていたのでしょうか。
  - 公共図書館に勤務しても考えていることだが、「本を借りてね」ということは絶対に言わないようにしている。それは押しつけになってしまうと思っている。その時に、雰囲気を変えようと思った。ここに本があるという形を作り

たかった。立ち止まる瞬間を作れるようにした。自発的に本を借りてもらえる環境を作っていた。

- 司書をしている上で、司書の魅力とは何でしょうか。
  - 本と人を繋げるのもそうであるが、外に出るようになってから、人と人を繋げるとか、人と情報を繋げるというところが魅力的だなと思っています。もしかしたらこれを繋げたことによって、大きなことが起きるのではないかとと思っています。
- 二人の師匠にここは絶対に負けないなと思うところはあるのでしょうか。
  - あえて言えば、自分は学校図書館も公共図書館も知っているというのが自分の強みだと思います。

今回、白百合女子大学では図書館ピアサポーターのLiLiAに所属する学生さんが数多く参加していましたが、それだけでない立場の学生さんも多く参加させることができたことは、何よりの成果だったと思います。受け入れて下さった皆さま、有り難うございました。

(記・今井福司)

## 都留文科大学 図書館サークル Libropass 活動報告

都留文科大学の日向先生のお話では、大学で図書館サークルに参加する学生の皆さんは、小学校、中学校などの学校図書館で楽しい体験をしている事が多いそうです。つまり、Libropass の皆さんですね。小・中・高校で培われたものが大学で活躍する礎となるとは、嬉しいです。

Libropass のマスコットキャラクター「ちるみい」「ブックくん」も紹介されました。活動内容は、ビブリオバトル、パスファインダー作り、カーリルレシピ<sup>1</sup>の作成など、その内容も多岐にわたっています。

今年は図書館総合展にも参加を企画中とのこと（SWCの後、2015年の図書館総合展に参加されました）<sup>2</sup>

都留文科大学のビブリオバトルを見た事がある、という学生も増えてきており、サークル内外への発信も大切にされています。こうした活動は、新入生を図書館に導くきっかけとなります。実は1年生で図書館に来ないと、次に来るのはゼミに入った後になることが多く、大学図書館に接するまでしばらく時間が空いてしまうようです。（ここで図書館が動画で紹介されました）

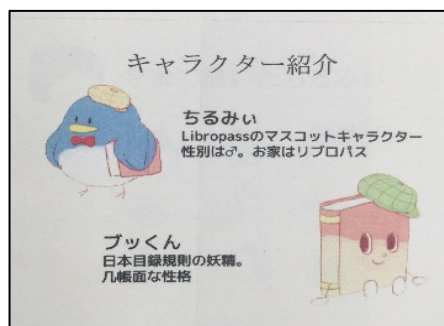
「イマキク<sup>3</sup>」を使った参加型アンケートの活用や、図書館内6カ所にスタンプを置いてのスタンプラリーなど、図書館が4階建てで広いことを逆手にとって、慣れてもらうために考えられた広報企画というところが興味深いです。また、机には消しゴムかすの為の箒と塵取りセットも常備するなどの細やかさも見られます。

今や大学図書館で重要視されているコミュニケーションスペースを設置し、オープンキャンパス時には図書館案内と学校周辺の案内も行うなど、入学前から始まるサポートも素晴らしいです。例えば、学園祭での古本市開催などもこうしたアイディアの1つです。

今後も色々な発信をされていくであろう皆さまの活躍が楽しみです。

Libropass ではFacebook 上で活動内容を発信するページ<sup>4</sup>を開いています。

### 図書館マスコット



(記・平松奈緒子)

<sup>1</sup> Libropass のカーリルレシピ <https://calil.jp/user/4432210249>

<sup>2</sup> 図書館総合展 2015 ブース紹介 都留文科大学日向研・図書館サークル Libropass <http://www.libraryfair.jp/booth/2015/2172>

<sup>3</sup> イマキク <https://imakiku.com/ja/#/>

<sup>4</sup> Libropass Facebook ページ <https://www.facebook.com/libropass/timeline>

## SWC2015 を終えて…日向良和先生（都留文科大学）メッセージ

今年度もやってきました！SLiiiC サマーワークキャンプ 2015 (SWC2015)。今年度はあこがれの「白百合女子大」にてのサマーワークキャンプです。

まず、会場をお貸しいただきました白百合女子大様に感謝申し上げます。

今年度私は1日目のみの参加となりました。1日目、いきなり早朝の地震により京王線のダイヤが乱れ、あわや遅刻か？というところでしたが、私はなんとか間に合うことができました。

今回は本学図書館サークル「Libropass（リブロパス）」の活動を報告し、白百合女子大図書館サークル「LiLiA」様とコラボレーションいたしまして、近年学校図書館現場でも図書委員会活動や生徒の図書館活動への参画が増えている現状を踏まえて、事例を提示させていただきました。

学生たちが地震により遅くなってしまったため、私からサークルの活動を報告させていただきました。Libropass は結成2年目で、これまで中央大学の梅澤氏を招待しての講演会や、学内でのビブリオバトル開催とYouTubeでの配信、大学図書館案内スタンプラリーの開催や、オープンキャンパスでの図書館ツアーへの協力などをおこなって参りました。

図書館側では本学若手司書2名と一緒に検討し、どうすれば「学生目線」で図書館の魅力や必要性を伝えることができるか？を課題に活動してきました。特に図書館ツアーなどではオープンキャンパス参加者の高校生に近い、大学生が案内することで、高校生が構えることなく図書館の魅力を発信することができました。

学校図書館においては、図書委員会や読書好きな生徒などを中心にさまざまな活動がおこなわれており、大学図書館の方が学ぶことが多かったSWCでしたが、図書館員側の姿勢、目論見などを読み取っていただけたら幸いです。

今年度もありがとうございました。

都留文科大学 日向良和

## 白百合女子大学 図書館ピアサポーター LiLiA<sup>1</sup>

LiLiAの皆さんは図書館ピアサポーターとして、企画展示や利用者案内を中心に学内外で活動されています。「LiLiA」とは「Library Liaison Assistant」の略であり、Liaisonとはフランス語でつながるという意味です。

フリーペーパー<sup>2</sup>を発行し、その詳しい活動内容も紹介しています。

近年は図書館と学生、人と人、学生と本を繋げるお手伝いを主に行っています。例えば学生同士でのレファレンスでは、声をかけやすい、聞きやすいなどの利点もあります。白百合祭にも初出展し、図書館総合展ではポスターセッションに参加するなど、近年はますます活動の幅を広げ、それをきっかけに他大学とも関わることも増えてきました。

LiLiA公式キャラクターのミス・リリアーナは、学生のデザインから全学の投票で決定されたもので、エプロンやTシャツにも活用されています。更に、リリアーナだけでなく非公式キャラクターも増殖中で、活動拠点となる「リリアの部屋」も美しく装飾されています。

白百合女子大学では、学生の皆さんは複数の部活動に所属するのが普通だとのことです。

## LiLiA Q&A

- どういうきっかけでLiLiAに入ったのですか？
  - 高校時代から司書になりたいと思っていました。
  - 高校時代にずっと図書委員だったので。
  - 小さい頃から2つの図書館のヘビーユーザー。説明会でLiLiAを知って、入るしかないな、と思いました。
  
- 図書館総合展で他大学と交流を始めたきっかけは？先生の誘導？
  - 学生が自主的に交流活動を始めました。それ以来、今も続いています。

---

<sup>1</sup> 図書館ピアサポーター “LiLiA” (白百合女子大学図書館)  
<http://www.shirayuri.ac.jp/lib/lilia/>

<sup>2</sup> LiLiA Times 創刊号 <http://www.shirayuri.ac.jp/lib/lilia/pdf/liliatimes201101.pdf>

- 活動内容は学生が自主的に決めているのですか？
  - 高校生にもオープンキャンパス内でも LiLiA の存在感を印象付ける様に活動しています。
  - 現在の所属人数はだいたい 20 人くらいです。
  - 学生の中からも希望があり、学校側からもそのような活動が望まれていました。
  
- 「LiLiA TIMES」を発行する時の苦労は？
  - まず、先生を捕まえることです！
  - 締切を守ってもらうこと。原稿を貰うまでねばります！
  
- リリアーヌちゃんはなぜヤモリなのですか？
  - 株式会社ブレインテックが運営する「Jcross」に全学投票で選ばれた当時の事情が載っています<sup>3</sup>。そこで全て説明されているので、ぜひ読んでみて下さい。

(記・平松奈緒子)



<sup>3</sup> 「図書館ピアサポーターLiLiA ー注目！学生図書館サポーターズ」(2014年10月30日掲載) <http://www.jcross.com/plaza/tokatsu/post-19.html>



白百合女子大学  
図書館ピアサポーター

**LiLiA**

～活動実践報告～

図書館ピアサポーターLiLiAってなに？

- LiLiA ...Library Liaison Assistant の略
- フランス語でLiaison(リエゾン) = つながる
- 「図書館と学生」「本と人」「人と人」など、人と図書館をつなぐことを目的に活動。



主な活動内容は？

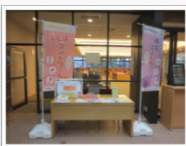


- LiLiA TIMESの発行
- 図書館内の見回り
- コントワール(学生カウンター)
- オープンキャンパス・講演会のお手伝い
- 季節ごとの企画展示
- 白百合祭・図書館総合展への出展 他

近年のLiLiAの活動を  
ご報告！



LiLiAコントワール



- フランス語で「カウンター」
- 休み時間にメンバーが交代で利用者案内
- 同じ利用者という経験をもとに案内が可能

リア タイムズ  
LiLiA TIMES

- 年に2回、4月と10月に発行
- 各記事ごとに担当者を決め、それぞれが作成したものを組み合わせている
- 主な記事は「先生のお薦め本」や季節のイベントについてなど



## 第49回 白百合祭



- LiliA初めての出展！
- テーマはハロウィン♪
- 来場者にオススメ本のポップを作ってもらう
- クリアファイルやしおりなど、LiliAグッズが登場




## 第16回 図書館総合展



- 図書館総合展に初出展！
- 白百合女子大学図書館を紹介
- 来てくれた方にしおりやクリアファイルをプレゼント！
- ポスター制作は徹夜...笑


## 他大学との交流会



嘉悦大学

帝京大学

- 図書館総合展がきっかけ
- 各大学でワークショップを体験
- 勉強になりました！



## LiliA研修



- 新メンバーにむけて、上級生が研修を実施
- 図書館内の見回りポイントを各階ごとに説明



## 新入生歓迎会！



- 新メンバーが早くLiliAになじめるように企画
- お菓子を食べつつ、トランプや人生ゲーム・ドミノ・人狼を楽しむ



## LiliAの企画展示



- 季節ごとにおこなう企画展示
- それぞれのテーマにあわせた本を選び、飾りつけ

12月展示  
テーマはクリスマス

3月展示  
テーマは  
燃きと癒し



ミス・リリアーナ




- 白百合女子大学図書館の公式マスコットキャラクター
- 学内でデザインを募集し、全学投票により決定



LilLiAの部屋

LilLiAの非公式キャラクターたち



## 図書館ピアサポーターLiLiA 企画

### 「お悩み相談会」「LiLiA といっしょに POP を作ろう」

白百合女子大学では、「他者を思いやることとその実践」を目的として、大学と学生が協働して活動することをピアサポーター活動と呼んでいます。「何かのために、誰かのために」かけがえのない仲間（ピア）をサポートする活動を学内外で実施しています。現在、学内では5団体が活動しており、図書館ピアサポーターLiLiA は図書館と人をつなぐピアサポーターとして、図書館館内の見回りや利用者案内、企画展示などを行っています。

(<http://www.shirayuri.ac.jp/campus/association/>)

SWC1日目の午後、大学図書館サポーター企画の中で、活動紹介が行われた後、LiLiAからは二つの企画が提示されました。一つが「LiLiA お悩み相談会」、一つが「LiLiA といっしょに POP をつくろう」です。

まずお悩み相談会として、LiLiAからは二つの悩みが寄せられました。

- ・ LiLiA の部屋に Wi-Fi をつないでもらうなど、大学側のサポートがもっと欲しい。
- ・ 学校司書になりたいが、どうしたら良いか。

特に、2番目の悩みは、会場から多くのアドバイスが寄せられました。

- ・ なかなか難しい業界ではあるが、本気で望めば道が開かれていくのでは。
- ・ 何故希望するかしっかりした考えを持っていた方が良い。
- ・ 人との関係性が大切ではないか。
- ・ コミュニケーション能力を持つ、素直な気持ちでいる、パソコンスキルも必要。

LiLiA のメンバーには、将来図書館に関わりたいと考えているメンバーも数多く在籍しておりますので、今後とも皆さまからアドバイス等を頂戴できれば嬉しいです。

次にお悩み相談会に続いて、「LiLiA といっしょに POP をつくろう」企画が行われました。この企画は SLiiiC スタッフの側から提案された企画ではなく、今回のコラボ企画が決定した段階で、LiLiA のメンバーから提案された企画でした。企画の概要としては、会場の参加者に POP を作ってもらい、ベストオブ POP を決定、作品は 10 月下旬の白百合祭で展示するという企画でした。

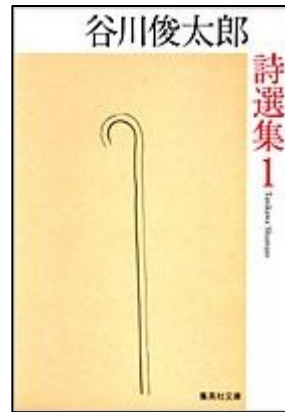
わずか1時間程度でしたが、会場参加者からは工夫にあふれたPOPの数々が提出され、まさに力作揃いでした。

(記・今井福司)





# ビブリオバトル



「もっと! ぼくのおやつ」

VS

「第2図書係補佐」

VS

「谷川俊太郎 詩選集1」

VS

「天冥の標 1」

VS

「ハムステッドの路地を歩けば」

著者 ぼく  
(@boku\_5656)  
2014年10月28日  
ワニブックス  
(株)ワニブックス  
フライパンと電子レンジ  
で作れるカンタンすぎる  
45レシピ。

著者 又吉 直樹  
2011年11月23日  
幻冬舎よしもと文庫  
(株)幻冬舎  
尾崎放哉, 太宰治, 江戸川  
乱歩などの作品を自分の  
生活に引きつけて紹介。

著者 谷川 俊太郎  
2014年6月6日  
集英社文庫  
(株)集英社  
1950~70年代の代表詩か  
ら編まれたアンソロジー。

著者 小川 一水  
2009年9月30日  
ハヤカワ文庫 JA  
(株)早川書房  
西暦2803年, 入植300周  
年を迎える惑星から始ま  
る人類の運命の物語

著者 井形 慶子  
2014年3月10日  
筑摩書房  
(株)筑摩書房  
副題は「節約しながら優雅  
に過ごすロンドン」50代で  
ロンドンに住むことにし  
た著者の暮らし。

5分本を紹介し, 2分質問を受け付け, また5分紹介, という具合に次から次へと LiLiA と Libropass のメンバーから 5名が参加して行われたビブリオバトル。どなたのお話も「この本を読みたい!」と思わせる力あり, かつ楽しいものでした。勢いがあり, 絶妙なユーモアあふれる司会にも脱帽です。会場の皆さんが選んだ結果は, 1位 「ハムステッドの路地を歩けば」 2位 「天冥の標 1」 でした。

## 懇親会 in 仙川

9月12日（土）17：30～ 仙川 yuuyoo CAFÉ

さて、懇親会の時間になりました。今回は交流のしやすさを強く求め、立食形式を採用。仙川駅前の yuuyoo CAFE で開催しました。

実は直前まで別のお店の予定でしたが、規定人数が集まらず貸切ができないという事態発生。くじけそうになったところを、スタッフに助けてもらい無事開催することができました。その頃の FaceBook を見ると、なんとまあスピーディーなやり取りが展開されていました。何回開催しても、人数の読みはなかなか難しいものです。

スタッフ横山さんの音頭で乾杯、続々と運ばれてくる美味しい料理とお酒に舌鼓を打ちながら、各々の現場の話、名刺交換、学生さんと一緒になって夢語り。この光景は、まだ筑波で SWC を行っていた頃と何ら変わっていません。「憂えることもあるけれど、私、図書館の仕事が好きです。」という気持ちが、ひしひしと伝わってきます。

中盤に差し掛かった頃、スタッフ今井さんから、白百合女子大学図書館事務部・LiLiA 担当の栗原慎治さんのご紹介がありました。予告なしのことだったのでご本人は大変驚いていらっしゃいましたが、普段のお仕事や働く側から見た LiLiA の活動をお話しいただきました。栗原さん、この日はお仕事の後にわざわざ駆けつけてくださったとのこと。本当にありがとうございます。

※栗原さんと LiLiA メンバーの詳しいお話は、下記をご覧ください。

<http://www.jcross.com/plaza/tokatsu/post-19.html>

このように、SLiiiC は突如参加者にスポットを当ててきます。それは「この人のことを、もっと皆さんに知ってほしい！」という純粋な気持ちからなのです。これをご覧になっているあなたも、次回はもしかして・・・？

テラス席に出てみると、キャンドルの明かりを囲んで実践のお話。戻ってみれば、高井陽さんによるねずみくんパペットの追加公演。最大の目標であった「交流のしやすさ」はクリアされ、幹事として感無量の夜でした。

（記・松井絢子）



## 2. サマー・ワーク・キャンプ 2015 開催報告

<2日目：9月13日（日）>

### ワールド・カフェ「学校図書館と生涯教育」要旨

SLiiiC サマー・ワーク・キャンプ 2 日目は今年のキャンプにもファシリテーターとしてワークショップをお願いした専修大学の小峰先生と、そのゼミの学生さんにより準備された「ワールド・カフェ」が行われました。（ワールド・カフェについては、小峰先生の解説に詳しく記載されていますのでご参照ください。）

会場には、前半のファシリテーター役の学生さんたちにより、グループテーブルの上に風船や花が飾られ、楽しい空間が作られ、テーブルクロスには薄いピンク色の模造紙が敷かれていました。参加者の気持ちを和らげ、リラックスしたなかで、会話がスムーズになされるように考えられた配慮に小峰研の心配りの妙を感じられました。

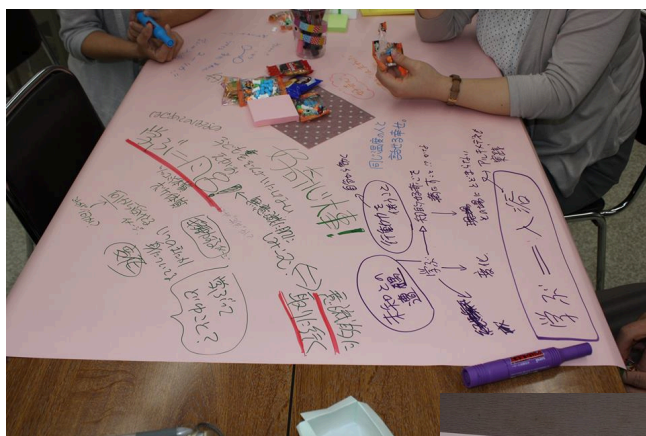


参加者それぞれに黄色の B6 版のハンドブックが配られました。今回のカフェの開催社名は「自転社」。「図書館が生涯学習により良く生かされることを、そして多くの人が進みだせる 1 つの自転車であることを願っています。」とのメッセージがこめられています。

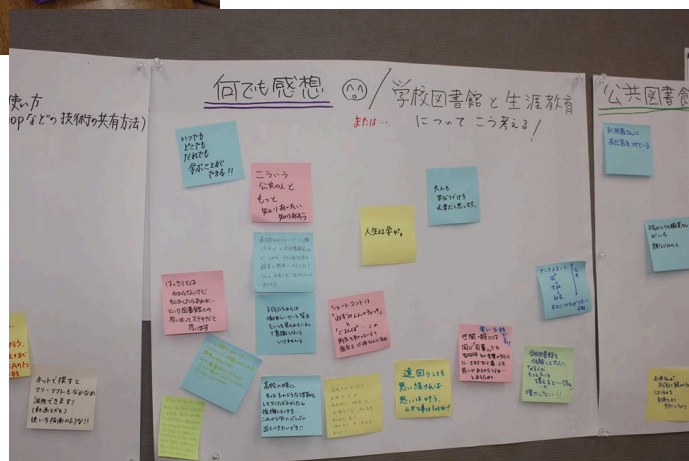
まず、小峰ゼミの稲井田さん、鈴木さんがファシリテーターとなり、「子どもが〇〇した時にすすめたい本は？」との問いから始まり、「あなたにとって最高の図書館司書とは？」「このワークショップにいらっしやった理由は？」と問いが続きます。参加者はテーブルクロスの模造紙に各自の思うところをマーカーで書き込んでいき、お互いの

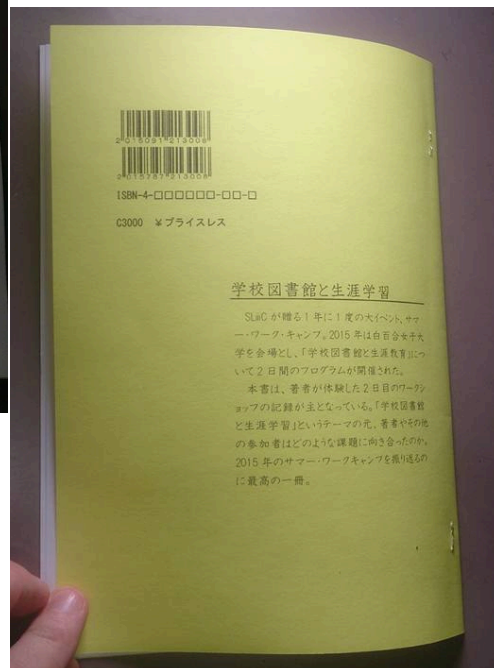
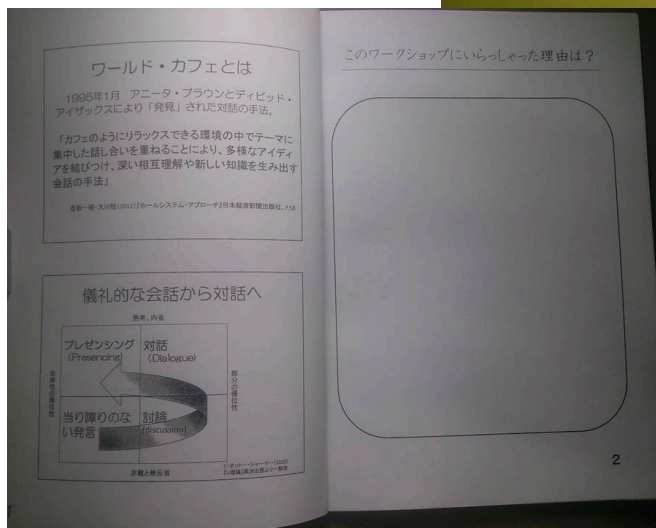
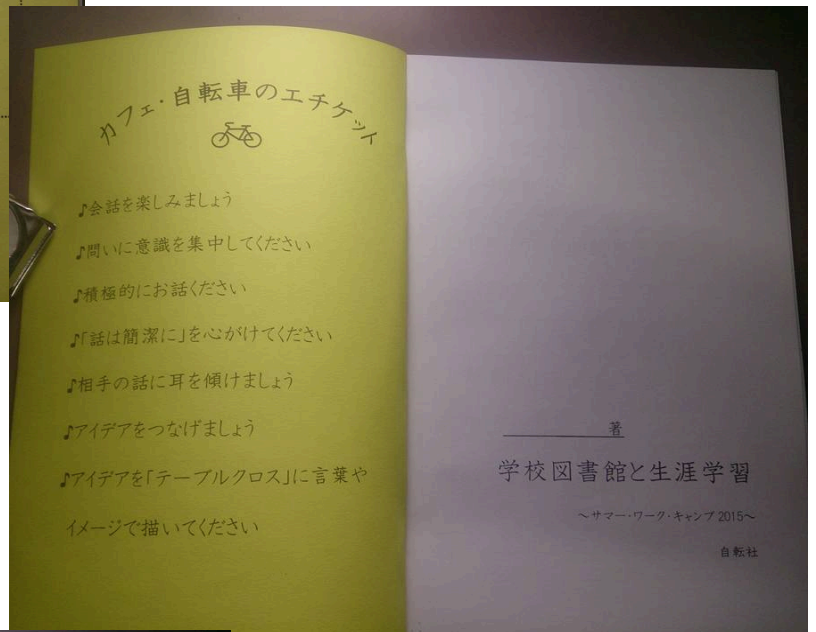
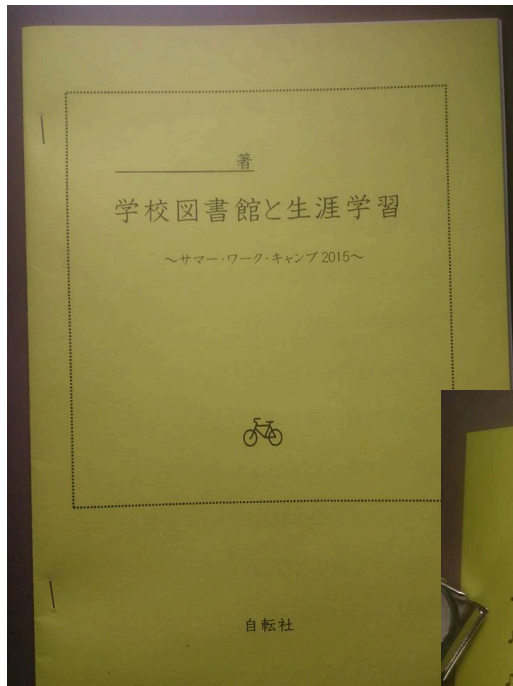
思うところを語り合いました。そして第2ステージのグループへと移動。ここから小峰先生の主導に変わり、いよいよ大テーマの「学校図書館と生涯学習」に向けての対話へ進みます。「学んでどういうことでしょうか?」「何のために私たちは学び続けることが必要なのでしょうか?」「どうして学び続ける力が求められているのでしょうか?」「学校図書館は、子供たちの学び続ける力を育てるのに何ができ、何をすべきでしょうか?」と、次々に用意された問いに対して、それぞれが手元の模造紙の上に思うところを記入します。同じテーブルの人同士で、お互いの答えを共有し、席替えをしながら対話が進んでいきます。そして、沈黙の時間1では「子供たちに学び続ける力をつけるために、あなたは今日から何をしますか?」、沈黙の時間2では「本日の対話で最も印象に残ったことをポストイットに書き出して下さい」との問いが提示されました。最後にテーブルの上に用意された付箋に、おのおのの意見や決意、思いが記入され、皆で共有する時間となりました。参加者が各自行っている実践内容についても語りあいました。

今回は小峰先生、ゼミの学生の方々にも12日の高井氏の講演を聴いてもらいワールド・カフェに繋いでいただきました。キャンプ前の丁寧な打ち合わせに始まり、就活で忙しい中、学生さんにも参加をお願いし、フレッシュな感性でのカフェを開催していただきました。ワールド・カフェでの対話から参加者の皆さんがリラックスして自身の思いや決意を見つめていくことができた様子です。それは、参加者が記入したリフレクションシートからも窺えました。



(記・関雅美)





# ワールド・カフェ「学校図書館と生涯学習」意図開き

専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科 小峰直史

「ワールド・カフェ」を実施してみたいという声がホストに寄せられた。

その要望に少しでも答えるために、ワールド・カフェを行うのに役立つプラスアルファの Tips を付け、皆さまの実践を応援できる小稿としたい。

まず、代表的な文献の紹介をおこない、次に今回のワールド・カフェをデザインしホストした意図を開くことでその目的にアプローチする。

ワールド・カフェを詳しく知り、実践するには、創始者のアニータ・ブラウン&デイビッド・アイザック (2007)『ワールド・カフェ カフェ的会話が未来を創る』HUMAN VALUE を手に取ることをお勧めする。この本では、ワールド・カフェの7つ中核的なデザイン原理が丁寧に説明されている。必読文献である。日本での第一人者である香取一昭・大川恒 (2009)『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社も外せない1冊である。この文献にはワールド・カフェの活用事例も紹介されていて、カフェが拓く可能性に触れることができる書籍である。香取・大川 (2011)『ホールシステム・アプローチ』日本経済新聞出版社は、ワールド・カフェを含めたダイアログをベースとするホールシステム・アプローチをコンパクトに解説してくれる。ワールド・カフェと他の手法を組み合わせることで、互いの特徴の強みを活かした魅力的な場が創られる。そんな可能性を見せてくれる本である。

## 1 ワールド・カフェ選択の理由は

ワークショップをデザインする上でもっとも重要なのは、ゴールである。2日間のサマー・ワーク・キャンプを経て、メンバーがどのような「お土産」を持ち帰るのかと言い換えても良い。主催者の SLiiiC 様からは、「生涯学習の一つの機能としての学校図書館について考えるワークショップ」というテーマをいただいた。企画意図を尋ねるミーティングを2回持っていただき、何のためにこのワークショップを「専門外」の私に依頼したのだろうか。初日の高井陽氏の講演をキックオフとし、2日目の午前のワークショップ開始時まで、「学び続けるということ」について対話がどのように深められていくのか、プログラム構成を前に考え続けた。

難航した末見つけた答えは、このサマー・ワーク・キャンプそのものの中にあった。学校図書館に関わるおおよそ一人職種の皆さんが、全国から集うこのキャンプの存在意

義に。参加者同士がつながりあい、対話をすることで皆さんの明日からの実践をエンパワーするにはダイアログを基調とする「ホールシステム・アプローチ」が良いだろう。しかも今回の企画のコンセプトには「学び人」と「働き人」とがともに学び合うとある。ワークショップの時間と幾つかの前提状況から判断して、ワールド・カフェを採用することとした。

## 2 問いづくりと全体セッションのデザイン

ワールド・カフェで参加者がダイアログに集中するには、ホストが「力強い質問」<sup>①</sup>を用意し、それを適切に配列することが肝となる。

効果的な問いを準備するには、テーマに関する質問を書き出し、どれが最も言葉を引き出すのかをチームで検証するのが良い。第1ラウンドで準備した3つの問い（「子供が〇〇した時にすすめたい本は？」、「あなたにとって最高の図書館司書とは？」、「このワークショップにいらっしやった理由は？」）は、自己紹介とダイアログの準備運動を兼ねた問いとして、研究室の若手二人が中心となり知恵を出し合って作ったものである。

「力強い問い」作りに、公式フレームなどは存在しないが、探求を促すオープン・エンドな質問が良いとされている。SLiiicのワールド・カフェでは、第2ラウンドで「学び」の定義を行い、第3ラウンドで生涯学び続けることが求められている意義を対話し、第4ラウンドで自らの実践を問うという、定義⇒意義・要因⇒行動という流れを採用した<sup>②</sup>。教育現場は理念だけではなく、行為が求められるし、行為とリフレクションの循環により、新しい実践が生まれるわけであるからこのような問いの配列を採択した。

種明かしをすると、ワークショップ当日までの学びの展開によりこれらの問いとその流れの確定を待つことを待つこととした。高井陽氏の講演直後にホストパートナーの稲井田、鈴木両名と話し合った。彼女らは午後の学生企画に参加するので、その後の学びの展開から判断していただき、「問いの構成に支障はない」との二人からのOKメールを待ち、私はパワーポイントのスライドの保存ボタンを押したという次第である。

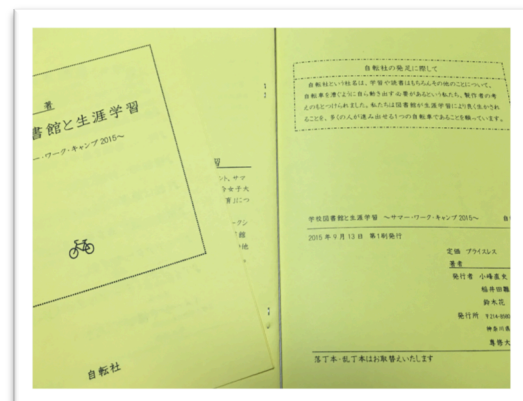
全体共有のセッション（ハーベスト）の設計には最も悩まされた。というのも、ワールド・カフェには、「拡散には強いが、収束は・・・」という「弱点」があるからだ。これを補うには全体セッションを設けることが不可欠である。参加人数と残された時間とを勘案し、一人で考える時間にて「感じたこと、考えたこと、共有したいこと、驚かされたこと、混乱させたこと」を各自言語化してもらい、それを各々が掲示、鑑賞することを全体セッション導入の仕掛けとした。

48枚のA4のシートを前に、私が今回のカフェで唯一介入した言葉は、「あっ！わかりました。その（皆さんが座っている）位置が良くないですね。皆さんテーブルから

立って黒板の前へどうぞ！」のみである。カフェのホストは対話の場を、静かにしっかりとホールドすれば良い、プロセスを管理するだけで良いという基本スタンスがある。喋りすぎがち＝前傾型のファシリテーターになりがちな私は、「話すためにはまず聴かれなければならない」<sup>③</sup>という、聴くこと、そして待つことの意味と力を再確認した 2 時間 30 分でもあった。

### 3 学生との協働で学んだこと

今回のワールド・カフェの空間づくりは、実のところ私の想定を超えたものであった。皆様の手元にある自転車社発行の『学校図書館と生涯学習』の黄色いハンドブック、当日各テーブルに飾られた手作りの花、置かれたペン入れやゴミ箱の設置。これらは、8 月末にとある地域で開催されたワールド・カフェに参加した研究室のメンバーの一人が、空間デザインの効果の気づきをシェアしてくれたことから実現したものである。大学の見慣れた長四角のデスクを、自分たちの持てるスキルと限られた財源で飾るという姿勢には、頭がさがった。彼女たちの心を込めた対応が、私にも波及し、いつも使う「白い模造紙」から「カラー模造紙」に変更を主催者にお願ひし、少しでもモノトーンの大学教室を変えようというエネルギーに繋がった<sup>④</sup>。





会場に入った時から、出会いに感謝する、来てくださった方に歓迎の気落ちを伝えることから関係作りはスタートする。それらが会話や思考の質にも影響を与えるということを、ファシリテーター慣れした私に、おもてなしの学びの空間作りのあり方を教えてくれたのが、若き教え子の存在であった。

#### 4 私には夢がある～ワールド・カフェの可能性

会話はあるが対話がない。これが現代日本のコミュニケーション状況であろう。関係の質は、思考の質を高めることをワールド・カフェのダイアログを経験した方は気付くであろう。関係の質は行動の質をさらに変えるというポジティブなウェーブを引き起こす。

私には夢がある。小学校、中学校、高等学校、それぞれの学校現場でワールド・カフェが行われ、対話の文化が日本に根付くことに。静かな対話を経験することで、違いを認め合い、異質性の中から新しい文化を創造するきっかけが産まれることを。そしてその社会はいまより暖かく、生きやすい世の中になることを。

---

① アニータ・ブラウン&デイビッド・アイザック (2007)『ワールド・カフェ カフェ的会話が未来を創る』HUMAN VALUE, 114 ページ。

② 香取一昭氏の「ワールド・カフェ基礎講座」(2015年9月5日)にて、香取氏及び講座参加者から問いづくりに関してアドバイスを受けた。ここに改めて感謝の意を表します。

③ 鷲田清一 (2000)『「聴く」ことの力』TBS ブリタニカ, 14 ページ。

④ これらに加え、素敵な鉢を用意してくださったスタッフの方、感謝いたします。

## SLiic サマー・ワーク・キャンプ 2015 報告書

専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科  
鈴木花

二日間にわたって行われた「SLiic サマー・ワーク・キャンプ 2015」に参加させていただいた感想をお伝えしたいと思います。

「図書館」という場に関心がある私にとって、現場に関わる多くの方たちとお会いできたことは貴重な機会でした。そのような環境で、どのような思いで活動されているのか、どの方のお話にも興味深く感じました。皆さんのお話の中で多く挙げられていたことは、一人職場であることの難しさ・司書という仕事の労働環境の厳しさ、その中でも学校図書館を良くしていきたいのだ、ということでした。

そのためでしょうか、ワールドカフェに参加している方々から、周りの人たちと課題や想いを共有したい！という強い気持ちが伝わってきました。SLiic の名前に込められた **Communication** (コミュニケーション)、**Collaboration** (共同制作)、**Combination** (連携) という思いが見えた場だったように思います。ワールドカフェが参加してくださった方たちをこれから先もつなぐお手伝いになっていければ幸いです。

「学校図書館と生涯教育」というテーマのもとで様々なことを体験したり、考えたりした中で、幼い頃から今に至るまで、図書館という場でどれだけの素晴らしい時間を過ごしたか思い出しました。居心地のよい席、新しい世界を見せてくれるたくさんの本、図書館にいつも居てくださる司書さん。そんな図書館を作る方々とお会いしたことで、私も誰かにとって幸せな場を作りたいのだ、と改めて確認することができました。多くの課題がありますが、日々できることを積み重ねていきたいと感じます。

今回お世話になった皆さんに心よりお礼を申し上げます。



## はじめに——ワークショップ設計について

SLiiCの方が、今回のSWCではワークショップを作りたいが参加もしたい、という自分の我儘を聞いてくださったので私はどちらもできることになり、2日目のワークショップの初めの時間を鈴木さんと一緒にいただきました。ワークショップを作るのは初めてで、どうすればいいのかと困ることも多々ありましたが、小峰先生と鈴木さんの助けもあって短いですが濃い時間が作れたかと思えます。

## 全体を通して自分ができたこと・できなかったこと

一番印象に残った自分のできたことは、「いろんな人と話すこと」です。1日目は講演や発表、POP作りなど思わず集中してしまうようなものが多かったですが、その後の懇談会や2日目のワークショップでは多くの方と図書館について、本について、学びについて話すことができました。実際に現場で働いている・活動をしている方のお話は非常に勉強になりました。またそれらのお話を受けて自分の中で図書館についての問題意識が大きくなりました。

ワークショップでは、話しやすい空間を作るお手伝いできたかなと思います。部屋に入った参加者の方が、すごいと言ってくださったことが嬉しかったです。自分たちで作ったはじめの時間では、参加している皆さんを見て、コミュニケーションをしっかりとれる問いを提供できたと思いました。しかし時間が足りず、全体的に急ぎ足にさせてしまったとも思います。適切な時間設定が、今回できなかったことだと感じました。また時間を区切る時の知らせ方も、どこでやめればいいのか迷い強引な切り方になっていたところがあったかと思えます。このような形で、参加しているみなさんにはプレッシャーを与えてしまったかもしれません。この経験は、必ず今後に活かしていきます。

## SWCに参加した感想

まず、純粹に、今まで図書館のことを話す相手があまりいなかったのもとても楽しかったです。普段はなかなか話せないような、多様な年代の方とのお話も刺激的でした。なかでも同年代の大学生が行っている図書館に関する活動には、特に感激しました。大学生のうちからいろいろな形で図書館に関われるのだと知って、自分にも勉強以外にもっとできることがあるのではないかと考えるようになりました。これからは私も、図書館についてもっと具体的な行動をしていこうと思います。

そして、私はまだ学校図書館には利用者としての立場でしか関わっていませんが、SWCを通じて生徒と司書の距離について、とても考えさせられました。生徒1人1人との適切な距離は当然違うでしょうが、図書館をいい場所だと、本を自分の助けになるものだと感じるような読書環境提供のためには、そういうものが重要になってくるのではないかと思います。

また、学び続けるというのは、歳をとることなのかなと私は思いました。生きている限り、毎日何らかの学びがあると感じるからです。その毎日の学びの質をあげるために、図書館や読書環境を提供できる人々の存在が、周囲の人々にとって大切なのだと思いました。

## おわりに

ワークショップの設計と参加を許可してくださったSLiiCの皆さん、小峰先生と鈴木さん、そしてお会いした皆さん、ワークショップに参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

この度のサマー・ワーク・キャンプでのワークショップが、SLiiCさんと参加者のみなさんの今後にお役に立てていただければ嬉しいです。

## SLiiiC マーケット！

SWC が東京方面で行われるようになり、参加人数が増え始めた頃、参加者の方から「物販をしたい」という声がちらほら聞こえるようになりました。「学校図書館の勉強会で物販？一体何を？」そう思われる方もいるかと思いますが、実はこの物販、利益を得るだけではなく、学校図書館を運営・管理をする上でのノウハウを多くの人に頒布する機会でもあるのです。

しかし、物販にはいくつかの壁があります。ちょっとしたものを頒布したいだけなのに、出展料が高額だったり、そもそも会場での販売行為が禁止されていたり。場所を提供する側としても、物販をする側としても「痛し痒し」の状態に陥ることは、皆さんもご経験があると思います。

ここで、我ら SLiiiC の出番！「思いついたことは基本実行」が信条（だと思っている）の私たちスタッフは、販売可の会場を用意し、出展料なしでの開催を決定。そして「ただ販売するだけではなく、物販と交流会をセットにした、コミックマーケットのようなイベントにしたい。」という、あるスタッフの一言により、このイベントは「SLiiiC マーケット！」と名付けられました。

今回出展して下さったのは 6 グループ、皆さん素敵なものを持ってきてくださいました。(50 音順・敬称略)

- 学校図書館問題研究会神奈川支部（ブックスタンドキット、著書販売）
- キハラ株式会社（図書館ぐっず販売・リーディングトラッカー展示）
- Kumori（オリジナルブックカバー販売・サポーター申込み受付）
- 白百合女子大学図書館ピアサポーター LiLiA（マスコットのリリアーヌちゃんグッズ販売）
- 白百合女子大学 マスールハローキティボランティア（オリジナルグッズ販売）
- りかぼん（楽しく理科を学べるキット・各種グッズ販売）

どのグループも大盛況、参加者の皆さんのお財布のひもが緩むこと緩むこと！マスコットキャラのいるグループでは、アイドルさながらの大撮影会が行われ、目指した「コミックマーケット」のような世界が広がっていました。その後のアンケートでも評判は上々、来年への期待を熱く感じました。

来年は「最後尾」看板が必要だったりして・・・？

（記・松井絃子）

## 学校図書館運営マニュアルプロジェクト 活動報告

SLiiiC では 2012 年 12 月より、「学校図書館運営マニュアルプロジェクト」（以下、マニュアルプロジェクトとします）を実施しています。マニュアルプロジェクトではこれまで、自治体や学校に向けてマニュアル作成の実態に関するアンケート調査を行ってきました。それとともに、学校図書館関係者を対象にしたインタビューを行い、実際にマニュアルを活用するユーザのニーズを探ってきました。最終的には、各自治体や学校でマニュアルを作成する際の指針案（ガイドライン）とその案を元にしたマニュアルのモデルを提案したいと考えています。

藤沢市の中学校図書館専門員である伊藤尚子さんと出会ったのは 2014 年初夏、マニュアルプロジェクトが企画協力で参加した「学校図書館キホン講座」（学校図書館問題研究会神奈川支部主催）でのことでした。伊藤さんからマニュアルの作成を模索したいので協力して欲しいとの申し出を受け、そこから FSL（藤沢市学校図書館専門員自主勉強会）とマニュアルプロジェクトの協働が本格的に始まりました。

全校配置ではあるものの、週 2 回勤務で研修の機会も決して多くはない、学校によって取り組みの状況は実に様々という藤沢市の現状を共有した上で、マニュアル作成の足がかりとして協働勉強会を 3 回開催しました。そこから事態は急展開し、あれよあれよという間に 2015 年度から教育委員会主体で学校図書館運営ガイドブック作成部会が組織され、話し合いが開始されました。

サマー・ワーク・キャンプでは、藤沢市の学校図書館の状況と FSL・SLiiiC の協働について、そして今年度からの新たな動きについて、伊藤さんから報告していただきました。また、マニュアルプロジェクトからは、FSL との協働勉強会の内容と今年度実施している調査について概要報告を行いました。FSL とマニュアルプロジェクトの協働の経緯については伊藤さんの当日のパワーポイント資料も合わせてご参照ください。

伊藤さんはじめ藤沢の皆さんとの協働で学んだことは、とにかく行動あるのみ、です。手をこまねいているばかりでなく、様々な人の手を借りながら、出来ることからやってみる。そんな熱意と切実さがまた他者を動かすのだと思います。私はまさに 1 回目の協働勉強会でその瞬間を目撃しました。あの時の高揚は今でも忘れられません。3 つの C を掲げて活動する SLiiiC スタッフの一員として、何かしらのお役に立てたのであればこの上ない喜びです。

（記・野口久美子）

藤沢市立片瀬中学校図書館専門員／FSL(藤沢市学校図書館専門員自主勉強会)代表

伊藤尚子さんより

今回、藤沢市のこれまでの経過を振り返ってみる機会を得、また、同時進行で行っている学校図書館の運営ガイドブック作成に関わっていることで、気づいたことをコメントとさせていただきます。

学校図書館を取り巻く状況は、まだまだ厳しい状況ですし、藤沢などでは、その中であって特に立ち遅れている現状は否めません。専門員のままならない思いも多く耳にします。ただ、そこに携わる方たちの熱意を強く感じることも事実です。

司書教諭、学校司書がそれぞれの役割を果たすこと、そこには、行政の大きな後ろ盾が必要であること、そして、その三者の連携が持たれてこそ、学校図書館の持つ力が発揮されるのではないかと思います。学校司書だけが先走りして奮闘するだけではなく、自分のスキルを上げながら、そこにプラス、さまざまな方たちを巻き込んで協働していくこと、それが学校図書館を有効に機能させることにつながるように思います。

藤沢市のガイドブック作成の動きは、急展開な始まりでしたが、三者とそこにさらに公共図書館も加わり、いい形で動き始めているように思います。時間をかけて、みなさんでいろいろなことを共有しながら進めていくことに意義を感じます。SLiiiC と FSL の勉強会が大きなきっかけ作りになりましたし、FSL も有意義な勉強をさせていただきました。



神奈川県藤沢市  
学校図書館運営ガイドブック作成に  
いたるまで.....途中経過.....

神奈川県藤沢市立片瀬中学校図書館専門員  
FSL(藤沢市学校図書館専門員自主勉強会)代表  
伊藤尚子

伊藤尚子学校図書館の経歴

- 2003年～ 大学図書館司書パート勤務  
SFC(慶應義塾大学湘南校)約3年半
- 2007年～ 図書ボランティア  
藤沢市立片瀬中学校 約4年間
- 2011年～ 学校図書館専門員  
藤沢市立片瀬中学校 5年目

藤沢市学校図書館専門員

- ・勤務 日7時間 月8日 年96日 672時間
- ・年休 3日からスタート(1年ごとに一日増し)
- ・1校専任
- ・社会保障なし
- ・専門員連絡会 年4回(出張扱い).....兼研修

藤沢市学校図書館のあゆみ

- ・2006年3月 藤沢市子ども読書活動推進計画の策定
- ・2010年4月 学校図書館専門員配置  
小学校5校、中学校2校

- ・2011年3月 ふじさわ子ども読書プラン2015  
第2次藤沢市子ども読書活動推進計画の策定
- ★P45 学校図書館のあり方について検討
  - ・司書教諭の専任化
  - ・学校図書館専門員の全校配置
  - ・学校図書室支援ボランティアとの連携

- ・2011年4月 学校図書館専門員が  
小学校35校、中学校19校 に  
全校配置される

本がある 人がいる  
行ってみたいくなる学校図書館

- ・2013年4月 専門員の自主勉強会(FSL)開始

一人職からくる不安や悩みの相談をし合ったり、課題についての勉強などをおこなううちに.....

悩みの解消、業務内容の画一化のため業務マニュアルの必要性を  
考えるように.....



さて、どうしよう.....?

- 2014年1月 神奈川学図研大交流会でSLiiiCのマニュアルプロジェクトを知る



即 相談！

- 2014年4月 SLiiiCのマニュアルプロジェクトとの協働はじまる。

- 2014年7月 藤沢市教育長と面談←市議会議員の仲介

教育長から

『専門員を配置してから、これまで なんの検証もしてこなかったことの反省を踏まえ、今後のあり方を事務局と相談する。専門員の業務についても、本来なら事務局が指導していかなければならないところ、なかなか難しく、今後、専門員と協力してマニュアルも検討していきたい。』

- 2014年10月 藤沢市議会  
平成25年度決算質疑の中で、学校図書館についての質疑応答があった。

- 2014年10月 第9回FSL勉強会 第1回SLiiiC研修会  
：SLiiiCを講師にお呼びして

お題『分類』

参加者 SLiiiC：野口さん、浅石さん

専門員：11名

教育主事1名 市議会議員1名

★教育主事から

藤沢市の学校図書館ガイドブック作成に関して  
FSLと協働も視野にいれていること

- 2014年11月 専門員連絡会

★教育主事から

- 2014年度中に藤沢市の学校図書館の方針を出すこと
- 専門員のガイドブック作成を考えていること
- 2015年度はガイドブック作成にあてること

が説明され、専門員へのアンケート調査をおこなった。

- 2014年12月 第10回FSL勉強会 第2回SLiiiC研修会  
お題『選書と廃棄』

参加者 SLiiiC：横山さん、野口さん、浅石さん

ゲスト：中塚さん（相模原市学校図書館整理員）

専門員：16名 司書教諭：3名

- 2015年3月 第12回FSL勉強会 第3回SLiiiC研修会  
お題『著作権』『合理的配慮』

参加者 SLiiiC：野口武悟さん、野口久美子さん、

浅石さん、大作さん

ゲスト：中塚さん（相模原市学校図書館整理員）

専門員：13名 司書教諭：1名 教育主事1名

- 2015年3月 藤沢市SLA(学校図書館協議会) 地区大会  
専門員連絡会  
を抱き合わせ、**合同研修会を開催**

★教育主事から

- 2015年度に市教委から学校図書館運営指針を出すこと
- 各学校図書館の年間計画を市教委に提出すること

- 2015年4月 辞令交付式にて

★教育主事から

学校図書館指針が提示された  
学校図書館運営ガイドブック作成にむけて取り組むことが説明された

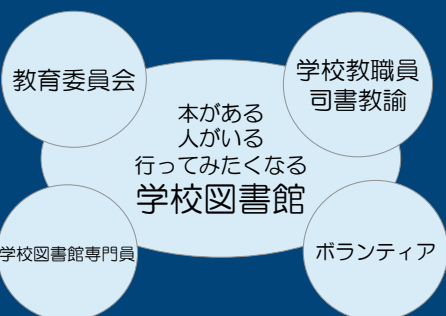
- 2015年5月 第1回学校図書館運営ガイドブック作成部会

ガイドブック作成部会のメンバー 計11名  
小・中学校司書教諭・専門員2名ずつ  
市民図書館員1名  
教育指導課2名

- 2015年7月 第2回学校図書館運営ガイドブック作成部会

- 2015年9月 第3回学校図書館運営ガイドブック作成部会

## 藤沢市 学校図書館を運営するそれぞれの役割



## 学校図書館運営ガイドブック作成の目標

学校図書館の学校での位置づけの明確化  
学校図書館の機能の明確化

学校図書館って  
なにができるの？

専門員って  
なにをしているの？  
なにができるの？

司書教諭、専門員、ボランティアの  
それぞれの業務内容と役割分担の明確化

藤沢市の児童・生徒は  
同じように  
サービスを受けられるように  
もちろん、先生も

各学校間のサービスの公平化

週2日じゃ足りな〜い

専門員の勤務体制の整備

蔵書の管理・運営には欠かせない

市全体のシステム化

おわりに

学校図書館を運営していく担い手がそれぞれの役割を認識し、協働していくこと

原点は  
生徒にとって居心地のいい学校図書館



## 「学校図書館・公共図書館あるある」トークイベント

学校図書館の日常でナチュラルに発生するあれやこれや、それに対してどうしようもなく考えるあのことこのこと，“ああ、これはあるある”と学校図書館関係者なら必ず思うことを集めて、一気に放出しようというこのSWC企画も、これで2回目です。今回は、公共図書館関係も忌憚なく思うところを述べていただこうと、上記のようなテーマで、前回と同じくSNSその他にてネタを募集いたしました。“スライド1枚に1あるある”を見ていただきながら、これも前回と同じく今井・横山の“夫婦漫才”にて仕切るという、笑かし企画です。ただ、その内容はおもしろおかしいながらも結構シリアスで、学校図書館の抱える問題を鋭く切り出しているものとなっている、と自負しております。披露されたネタは以下の通りです。

### 【学校図書館ネタ】

- ・「この図書館の本、全部読んでるの？」と聞かれる。
- ・ずっと本を読んでいられていいねえ！
- ・ランチは5分。
- ・不明本は並んだ本の裏側を探す。
- ・カウンターで聞き耳を立てている。吹き出したら負け。
- ・旅行計画ぬかりない、図書館も探す。
- ・出張の日はおしゃれをしている（当社比）
- ・なぜか旅先で道を聞かれる。
- ・出かける先々で展示に使えるかどうか、という購入動機。
- ・旅先のパンフレットやリーフレットはとりあえず資料として持ち帰る。
- ・100均とホームセンターに入り浸る。
- ・本屋に行くと、どんな用事であっても最終的には児童書コーナーに行く。
- ・書店で書架整理を始める。
- ・言葉遣いが、なぜか若者っぽい。
- ・昼間読み聞かせした本を、我が子の寝かしつけ時に語る。
- ・アウトプットした側から忘れる。
- ・分身はパペット
  - ・そして連れ歩くパペットと顔が似てくるような…。
  - ・ということはわたしゃカエルか。
  - ・なぜかカエル好きが多いのも司書あるあるかも。

- ・好きなブックコートフィルムのメーカーが決まっており、他のメーカーの製品を使うと微妙。
- ・夏休み開館日。大量に学童からの丸投げ児童がやってくる。
- ・夏休み、プールの後に図書館に。水着と本は別に入れてほしい。
- ・どんなオーダーにも笑顔でイエス！
- ・先生たちの知らない“あの子”を知っている。  
注)座敷童のことではありません！
- ・図書館ルールを一番知らないのは先生たち

### 【公共図書館ネタ】

- ・利用者さんにあだ名をつけている。
- ・お気に入りの職員さんがいる。
- ・図書館の「怖いお話会どうだった？」とプール帰りの子ども達に聞いたら、「カウンターのおじさんが怖かった！」
- ・長椅子で寝てる…。
- ・お母さんが子どもに読み聞かせをしているのを気持ちよく聞き入っちゃう。
- ・「お母さんが『図書館の予約が混んでいるから、学校でこれ借りてきて』って」
- ・学習予定が複数校で重なって資料が準備できない。何とかならないかと言われる。うーん…。

1スライドごとに、司会2人がなんやかんや言い、参加者に無理やり振り、脱線したり戻ったり、と騒々しいことこの上ないありさまでしたが、参加者のみなさまの広い見識と大人の態度に支えられ、和やかに進めていくことができました。そして、そのやり取りの中には、かなり役に立つ情報も多く含まれていたのではないかと、思います。この企画が、これからのみなさまの学校図書館ライフに、少しでも貢献することができるなら、これ以上の喜びはございません。

(記・横山寿美代)

学校図書館・公共図書館  
あるある

サマー・ワーク・キャンプ  
2015

SLiic マーケット！ 2015.9.13

初対面の人に職  
業を当てられない  
自信がある

あるある 


年齢不詳な人が  
多い

あるある 


この図書館の本、  
全部読んでるの？  
ときかれる

あるある 

ずっと本を読んで  
られていいね、と  
子どもに言われる

あるある 


ランチは5分

あるある 


不明本は、並んだ  
本の裏側を探す

あるある 


カウンターで聞き  
耳を立てている。  
吹き出したら負け。

あるある 

出張の日はおしゃ  
れをしている(当社  
比)

あるある 


なぜか旅先で道を  
きかれる

あるある 

出かける先々で展  
示に使えるかどう  
か、という購入動  
機

あるある 

旅先のパンフレット  
やリーフレットはと  
りあえず資料とし  
て持ち帰る

あるある 


100均とホーム  
センターに入り  
浸る。

あるある 

本屋に行くと、どん  
な用事であっても最  
終的には児童書  
コーナーにいる。

あるある 


書店で書架整理を  
始める

あるある 


言葉遣いが、なぜ  
か若者っぽい

あるある 

昼間読み聞かせし  
た本を我が子の寝  
かしつけ時に語る

あるある 

アウトプットした側  
から忘れる

あるある 

## 分身はパペット

そして連れ歩くパペット  
と顔が似てくるような

と言うことは、わた  
しゃカエル似か。

なぜかカエル好き  
が多いのも司書  
あるあるかもしれ  
ません。

あるある 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻

## マイ工具箱が ある。

あるある 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻

好きなブックコートフィル  
ムのメーカーがあり、そ  
れ以外をかけると出来も  
ビミョウだったりする。

あるある 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻

ブッカーの切れ端を捨て  
ずにとっておく。でも活用  
場面が少なく、たまる一  
方。

あるある 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻

夏休み開館日。大量  
に学童からの丸投げ  
児童がやって来る。

あるある 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻

夏休み、プールの後  
に図書館に、水着と  
本は別々のバックに  
入れて欲しい...

あるある 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻 🧑🏻


どんなオーダーにも笑顔でイエス！

あるある 


先生たちの知らない“あの子”を知っている

あるある 

図書館ルールを1番知らないのは先生...

あるある 

利用者さんにあだなをつけている

あるある 

お気に入りの職員さんがいる顔なじみの人

あるある 

図書館の「怖いお話し会 どうだった？」とプール帰りの子供に聞いたら「カウンターのおじさんが怖かった！」それって？

あるある 

公共

自治体によって司書の人  
の対応に差がある  
丁寧なところとそうでない  
ところ

あるある 

公共

長椅子で  
寝てる...

あるある 

公共

お母さんが子どもに読み  
聞かせをしているのを気  
持ちよくききいっちゃう

あるある 


公共

お母さんが「図書館の予  
約が混んでるから、学校  
でこれ借りて来て」って。  
なんかね。

あるある 


公共

“そちらの学校の本がうちの館  
に間違えて返されましたよ。借  
りている児童に取りに来るよう  
にしてください。”大抵、家族  
が間違えて返却してる(ーー)

あるある 

公共

学習予定が複数校で重なって、  
資料が準備できない、何とか  
ならないかと言われる。  
うーん...

あるある 



今まで出てきたのはこれで

おわり

## おわりに

2015年のSWCは専修大学から舞台を移して、今井の勤務先である白百合女子大学で行いました。都留文科大学図書館サポーターLibropassの皆様、白百合女子大学図書館ピアサポーターLiLiAの皆様、そして専修大学小峰直史先生のゼミ生の皆様と、例年になく多くの大学生が参加した2日間だったと思います。大学のキャンパスでの実施は、長期休業中であると制約が大きいところもあるのですが、今年度はSLiiiCが大切にしてきた、現場、研究者、学生という3つのつながりについて、特に強化できた会だったと確信しています。

他にSLiiiCが大切にしていることとして、なるべく他の団体がやらないような企画をしようということがあります。今回は「生涯教育と学校図書館」という、一見すると関係のないものを組み合わせたかのような印象を与えたり、公共図書館と学校図書館のつながりを中心に検討するののかとの印象を与えたりするテーマだったかもしれません。しかし、生涯教育は何も大人だけが対象者ではなく、学校図書館の先、大学教育も生涯教育の範疇に入ります。学校図書館の先へつながるものは何か、学校図書館のあり方が問われつつある今だからこそ真剣に考える必要があるのではと思います。今後も同様の取り組みが学校図書館の世界で広がることを強く願います。

今年は皆様のご協力により、大きなトラブルがなく2日間のイベントを終えることが出来ました。深く感謝申し上げます。ただ一方で、スタッフ不足や準備不足で、色々なところで足りないところがあったり、参加者の皆様、講師の皆様にはご迷惑をおかけしたことが多かったかと思います。また、スタッフの負担コントロールが上手くいかず、報告書の発行がかなり遅くなりました。この場を借りてお詫び申し上げます。

SLiiiCでは2016年度も引き続き、白百合女子大学を舞台にSWC2016を開催する予定です。9月10日(土)、11日(日)の開催を目指し、現在スタッフ一同、企画案の作成など準備を始めているところです。今年も他の団体が実施しないような魅力的なイベントを用意しています。調布市仙川のキャンパスで皆様をお待ちしております。

今井福司（白百合女子大学）

## Special thanks to

- ・ 高井陽さん（大田区立大森南図書館）
- ・ 小峰直史先生（専修大学） & 専修大学文学部小峰研究室の学生の皆さん
- ・ 日向良和先生（都留文科大学）
- ・ 都留文科大学 図書館サークル Libropass の皆さん
- ・ 白百合女子大学図書館ピアサポーター LiLiA の皆さん
- ・ 伊藤尚子さん（藤沢市学校図書館専門員）
- ・ SLiiiC マーケット！出展者の皆さま

## 学校図書館プロジェクト・SLiiiC スタッフ（五十音順）

- ・ 今井 福司
- ・ 関 雅美
- ・ 大作 光子
- ・ 中務 明子
- ・ 野口 久美子
- ・ 平松 奈緒子
- ・ 松井 絃子
- ・ 横山 寿美代（代表）

---

## 学校図書館プロジェクト・SLiiiC

サマー・ワーク・キャンプ 2015 開催報告書

2016年3月31日 初版発行

編集・発行：学校図書館プロジェクト・SLiiiC

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部 野口研究室内

本報告書の無断複写・転載を禁ず

---